

第1回 湯沢町総合計画審議会 議事要旨

日時：令和7年5月9日 13時30分

会場：湯沢町役場 大会議室

参加者：委員 15名 事務局 6名

1. 町長あいさつ

2. 自己紹介

3. 報告・確認

(1) 湯沢町総合計画について 資料1

(2) 湯沢町総合計画審議会について 資料1

(3) 湯沢町総合計画の策定スケジュール等について 資料2

○3つまとめて事務局より説明

委員

・第2回目以降の審議会について、第3回第4回は凡そどのくらいのスケジュールでどのような内容になるのか現時点での考えは？

事務局

・アンケートを踏まえ前期計画の進捗を確認して後期に向けての審議を行うことを考えているが、具体的に何回目というのは未確定。

4. 議題

(1) 会長及び副会長の選出について

○事務局より会長、副会長の人事を提案し、承認を得る

○会長に進行を交代

(2) 町民意識調査について 資料3

○事務局より説明

委員

・ウェルビーイングは感情的で数値に表しにくいと思うが、アンケートでどの程度の信憑性が出るものなのか？

会長

- ・人々の満足度は金銭的なものでは測れないだろうということで、どうにかして定量化するために始まったのがウェルビーイング調査
- ・現状での最善（限界）の手法

委員

- ・アンケートでは共感の感情をすくい上げづらいのでインタビューという方法もあるが、いつかはそういう方法も取ってはみてはどうかと思う。

会長

- ・いずれは補完的な方法としてはあると思う。

事務局

- ・ウェルビーイング調査を行うことで全国との比較ができるようになる。

会長

- ・点数化して偏差値化して自治体間の比較ができる。
- ・湯沢町のウェルビーイングの長所と短所を視覚的に把握できる。

委員

- ・18歳以上無作為に2,000人にアンケートすることだが、人口ピラミッド的に無作為に選ぶと年代のばらつきが出るのではないか？

事務局

- ・町の現状に合わせたアンケートの取り方とした。
- ・前期計画策定時のアンケートでは地域間で格差が出ないように調整はした。

委員

- ・10年先を見据えた調査であるので、高齢者に聞くか若者に聞くかで大きく変わってくる。
- ・ただ公平性という観点もある。
- ・今後のことを見据えるなら、将来を担う若者に聞くと、町の知りたいことを知ることができるのでないか。

委員

- ・去年人口ビジョンのアンケートで18～39歳のアンケート取ったので、そこ

とかけあわせるのも良いのでは。

委員

- ・前回のアンケートの回収率は？

事務局

- ・44.1%

会長

- ・人口をそのまま反映するのは大事だが、若者向けアンケートとすると回収率が低い。
- ・総合計画PI3に年齢別集計も出ているのである程度各世代の意向がわかるが、5年前よりも更に若年層の回答数が少なくなる可能性があり、みなさん懸念しているのだと思う。

委員

- ・生涯学習の計画に向けてのアンケートについて同じ話になったが結論は出なかった。
- ・高校生や中学生がきちんと答えられるのかという不安もある。

会長

- ・年齢分布どおりアンケートを出すと年齢分布どおりの回答数にならないことが往々にしてあるので事務局で検討してみてはどうか。
- ・地域と年齢でクロス集計すると個人が特定できてしまう恐れがあるのでやるべきでない。

委員

- ・次回の前期計画を作るときに今回の前期計画との比較もするのか。
- ・毎回前回比較になるので、どこかのタイミングを変えた方が良い。
- ・中学生以上の若年層はWebで全員にアンケートしても良いのではないか？

事務局

- ・総合戦略のアンケートでは、高校生の方が19～39歳より回答率が高かった。

委員

- ・年齢調整もした方が良いのではないか。

事務局

- ・年齢調整をするとすると、若年層は悉皆か（下限等）？

委員

- ・若年層は人口が少ないので全員を対象にした方が良いのではないか。
- ・経費の問題は、逆に高齢者の対象を少なくする。

委員

- ・若い人の意見は大事だが、50代の人も60代の人も5年後湯沢で幸せに暮らしてもらうのも大事。
- ・若い人の意見だけを聞くことが正しいのか。

委員

- ・湯沢町は介護申請を開始する年齢が高い。
- ・高齢の方にも意見を聞いた方が良いのでは。

委員

- ・若年層は湯沢町から出ていく人数も多い。
- ・（なぜ出していくのか等）コアなターゲットに絞って本音を聞いた方が良い。
- ・そのためにはインタビューが良い。

会長

- ・他にも色々な機会があるので、今回の調査はインタビューではなく、幅広く意見を聞く。
- ・全年齢的にアンケートを取ることはコンセンサスをいただいた。
- ・若年層を厚くするか、若年層を全数にするかは事務局に任せる。
- ・予算とスケジュールの制約の中で動ける範囲で、若年層の意見が少しでも多く返ってくるように工夫してもらう。
- ・次回計画以降のアンケートでは手法等検討する余地がある。

事務局

- ・年齢層の調整について検討する。

会長

- ・現状のアンケート手法でも年齢別の集計は行っており、世代間の差は確認できるので、スケジュールとの兼ね合いの中で検討してもらえばよい。

委員

- ・2,000人で実施する場合、抽出段階で世代別の人数をそろえる方法もある。

5. その他

なし

閉会